

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3071600278
法人名	医療法人 明美会
事業所名	グループホームきびの里
所在地	和歌山県有田郡有田川町小島2-3 (電話) 0737-52-3227

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月13日

【情報提供票より】(20年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	13 人	常勤 10人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人明美会 有田南病院、きび訪問看護ステーション
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは病院併設であり利用者の健康管理提携が充分行われており、緊急災害にも病院職員の応援がもらえる体制がある。面会の少ない利用者家族には、安心をして頂ける様に気を配り、電話で月一回は生活状況を報告したり、家族便りに写真を同封して、情報を伝える等、努力がされている。職員は介護に前向きであり、笑顔の中に闊達な動きが伴いいきいきしている。管理者も介護制度上の問題や介護職員の獲得等の課題と葛藤しながらも、何時でも家族・利用者・職員のために対応できるように気を配っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘のあった「地域とのつきあい」については、運営推進会議において協議を重ねる中で、地区長や民生委員等からアドバイスや協力を得て、着実に改善に向けた取り組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員全員で行って管理者がまとめあげた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの状況・行事等の取り組みを報告している。また、意見交換の場では特に地域との交流について協議を重ね、地区長・民生委員等から貴重なアドバイスがあり実施する上でも協力が得られ、着実に成果に結びついている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームたよりは2ヶ月に1回発行し暮らしふりや職員の異動等について報告し、一人ひとりの近況や健康状態については、電話や利用者の家庭を訪問して報告したり、写真を郵送する等個々に応じ工夫して報告している。年間の行事計画を届けており、行事の度に家族の参加を呼びかけ意見聴取の機会としている。また、運営推進会議の後で家族会としての時間を設定して意見を出して貰いやすく配慮しており、出された意見は運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	環境的に地域とのつながりを持ちにくい状況にあるが、地区長の協力で利用者に負担の無い様に特別に席を手配して頂いて秋祭りに参加できた。また、地域との繋がりを重視する中で、食材等の買い物は地域の商店に依頼し、理美容も近隣から来て貰うなど地元の人々との交流の機会づくりに努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの意思を最大限に尊重し、地域の中でその人らしい生活が継続できる様に取り組んでいくという趣旨の事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員共にカンファレンス等の機会には理念について共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	環境的に地域との繋がりを持ちにくい状況にあるが、運営推進会議において検討する中で、地区長の協力で利用者に負担の無い様に特別に席を手配して頂いて秋祭りに参加できた。また、地域との繋がりを重視して食材等の買い物は地域の商店に依頼し、理美容も近隣から来て貰う事をするなど地元の人々との交流の機会づくりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己評価・外部評価を実施する意義を理解している。前回の外部評価において指摘のあった「地域とのつきあい」については、困難を極める中、出来得る部分を探りながら具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの状況・行事等の取り組みを報告している。また、意見交換の場では特に地域との交流について協議を重ね、地区長・民生委員等から貴重なアドバイスがあり実施する上でも協力が得られ、着実に成果に結びついている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者とは運営推進会議以外にも連絡等密に行う様にしており、連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは2ヶ月に1回発行し暮らしぶりや職員の異動等について報告し、一人ひとりの近況や健康状態については電話や利用者の家庭を訪問して報告したり、写真等同封して郵送する等個々に応じて工夫して報告している。また、金銭管理についても定期的に収支明細書等送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年間行事計画を配布しており、行事の度に家族の参加を呼びかけ意見聴取の機会としている。また、運営推進会議の後で家族会としての時間を設定して意見を出して貰いやすく配慮しており、出された意見は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員による支援を受けられるように全て専任とし、ホーム内で勤務調整を行っている。職員の異動・離職時には利用者にダメージを与えない様十分に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行われる研修・認知症実践者研修・県グループホーム連絡会の研修等、機会は確保されており、伝達研修も行われている。また、新入職員には実習期間を設けて業務を習得できる体制がとられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に加入しており、研修や交流、相互実習等行っている。また、近隣の同業者とは互いにホーム便りを送付し、情報交換の機会としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたっては、ホームを見学して雰囲気を見て貰う様にしており、本人や家族の不安を出来るだけ少なくできる様に話し合い、徐々に馴染める様工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごす時間を多く持ち、一人ひとりの得意とする事を見い出して学び、喜び等を共有する中で共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの言動を24時間シートに記録する中で、思いや意向の把握に努め、それを最大限尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意向、関係者の意見等を取り入れ、カンファレンスの中で利用者の状況を確認した上で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っており、心身等に変化が生じた場合は医師や法人の地域医療連携室等の意見を参考に随時見直して変更している。見直しのカンファレンスには家族も出席して現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の契約を結んでおり、十分な医療体制が整えられている。また、外泊支援や通院時の対応等柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医として母体病院の医師により2週間に1度の往診を受けている。また、こころの医療センター等専門科の受診も必要に応じて行って密に連携を図る中で適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合や終末期のあり方について話し合いの機会を持っている。病院併設であり、終末期の対応については家族の安心が得られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる様な言動は見られない。また、記録等個人情報についても保管等取り扱いは適切になされている。ホームだよりについては、写真の掲載等家族の了解を得た上で外部に出している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、できるだけ希望に沿った生活が出来る様支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を考慮して食事を作るよう工夫しており、能力に応じて食膳の準備や後片付け等を手伝って貰っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後2時頃からとしているが、一人ひとりの意思を確認し、出来るだけ希望やタイミングに合わせている。職員とのコミュニケーションを楽しみながらゆっくりと入って貰えるように支援しており、入浴を楽しみにしている利用者が多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみなど出来る範囲で行って貰っており、編み物や読書などの楽しみごとを無理なく継続できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遠足やドライブ、散歩など外出の機会はあるが、日常的に戸外に出かけられる状況にはない。家族面会時の外出をお願いしている。	○	建物の立地環境に左右される部分も多々あるが、近くに散歩道が整備されつつある所でもあり、出来るだけ積極的に日常的な外出支援に取り組まれる事を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員共に鍵をかける事の弊害を理解しており、日中は玄関等に鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を実施している。夜間帯についても連絡や避難誘導等のシュミレーションを行い、より適切な方法等検討している。住宅地は隣接していないが法人内での協力が得られる体制が確保出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が作成する献立表を参考にしており、カロリーや栄養バランスには十分に配慮されている。また、一人ひとりの水分や食事の摂取量は個々に記録した上で過不足なく摂れる様に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節を感じられる飾り付けがされており、明るい開放的な雰囲気になっている。不快な音や光もなく、居心地良く過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入り口にはそれぞれに異なったリースが飾っており、室内にも手作りのカレンダーや家族の写真が飾られている。使い慣れた家具等が置かれ居心地良く過ごせる工夫がなされている。		